

10/7(火) 1年生がトイレ掃除に教室掃除にがんばりました!

1年生は、産業社会と人間の授業の一環で、掃除をしました。泥やゴミで詰まった排水溝や壊れた掃除庫の修理に最後まで取り組む姿も見ることができました。本当にお疲れ様でした!

所で、皆さんの日ごろの掃除態度はどうでしょうか?

- 掃除中なのに、椅子に座っている。
- 大声で話をしている。
- 掃除開始後 10 分以上経過しているにも関わらず、清掃場所に行っていない。
- ゴミ箱にはたくさんのごみが入ったまま。
- 草や落ち葉を風に飛ばして遊んでいる。
- シャがみこんでいるだけで、手を動かしていない。
- 外掃除を「シャがんで休む時間」「妄想の時間」にしている。
- 先生がほとんど掃除をしている。

**掃除もできない人間にするのは可哀想である**

清掃でこれらの態度が見られるということは、全校的に「学校が危ない状況」であると言わざるを得ません。清掃が十分にできない生徒が、学習に集中して取り組むことはないと考えます。働くべき時間に働かないということができのだから、学ぶべき時間に学ばないことも平気なのでしょう。先生がいないと働かないのですから、先生がいないと学ばないでしょう。そんな人間にするのは、可哀想だと思います。

1 先生は「指導」を行う。

先生が一番の働き手なんていう逆転現象を起きていませんか。先生は「共に働く」というより、まず、生徒自身がしっかりやれるようにします。掃除をしていない生徒には、掃除のやり方を指導します。そして、生徒がきちんと自覚をして働くようになった時に、初めて先生が共に働きます。

2 ノルマ・作業目標を高く、具体的に。

特に外掃除は、何を目標にやっているのか分かりにくい場合もあるでしょう。この一輪車を草でいっぱいにする、このバケツ 5 回満杯にする、この 1m 四方に草が一つも生えていないようにする。生徒が精一杯やってやっと達成できるような目標を持ちます。

3 確認をしっかりと。

目標ができていないのか、できていないのか確認をしましょう。先生も最後まできちんと見届けます。

上の 1~3 が実行されないようでは、掃除をしないでも平気な人間になるでしょう。それは「可哀想」なことだと思います。自分の物だけではなく、みんなで使うものだからこそ、大切にすることを心に付けましょう。

掃除とは・・・。「心を磨くこと」!

心を取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に、人の嫌がる場所をきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てくる。

全校生徒・職員で頑張りましょう。